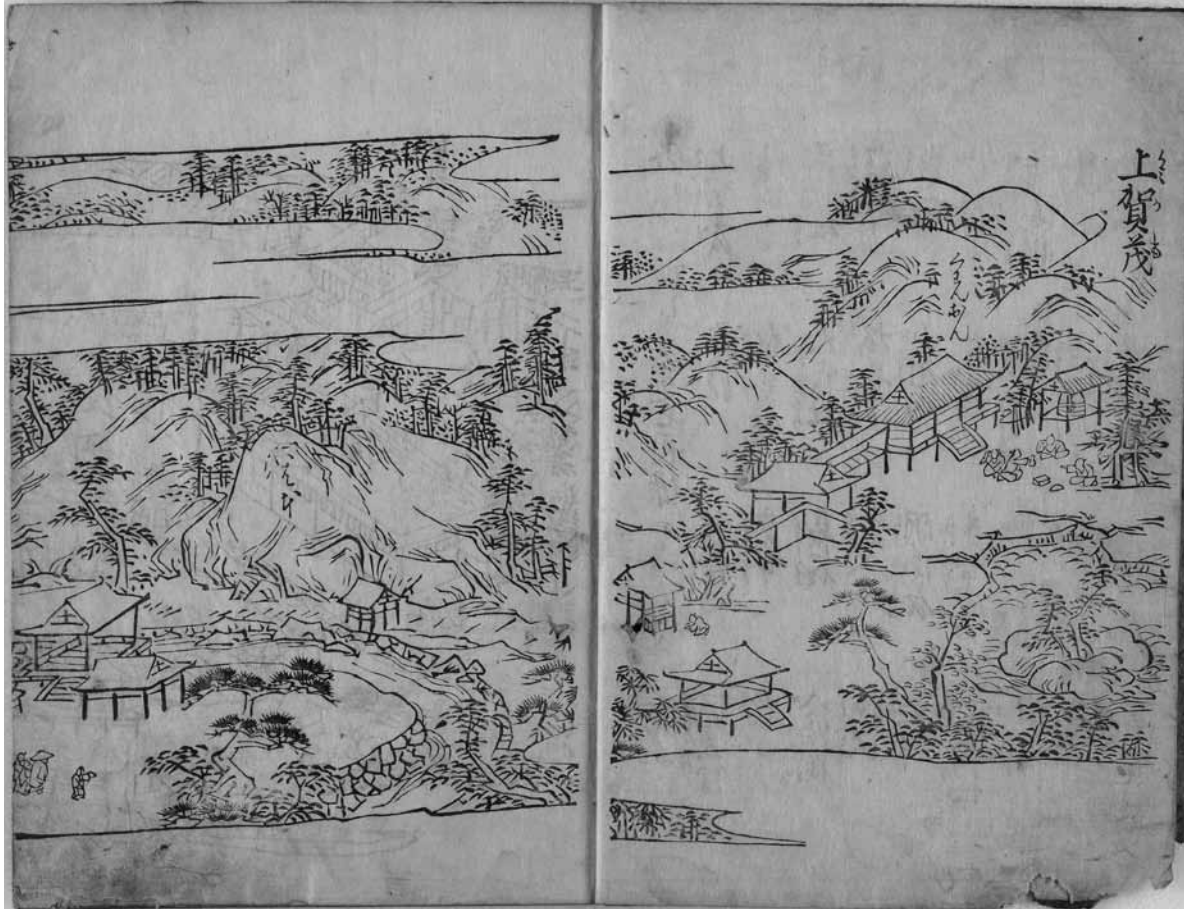


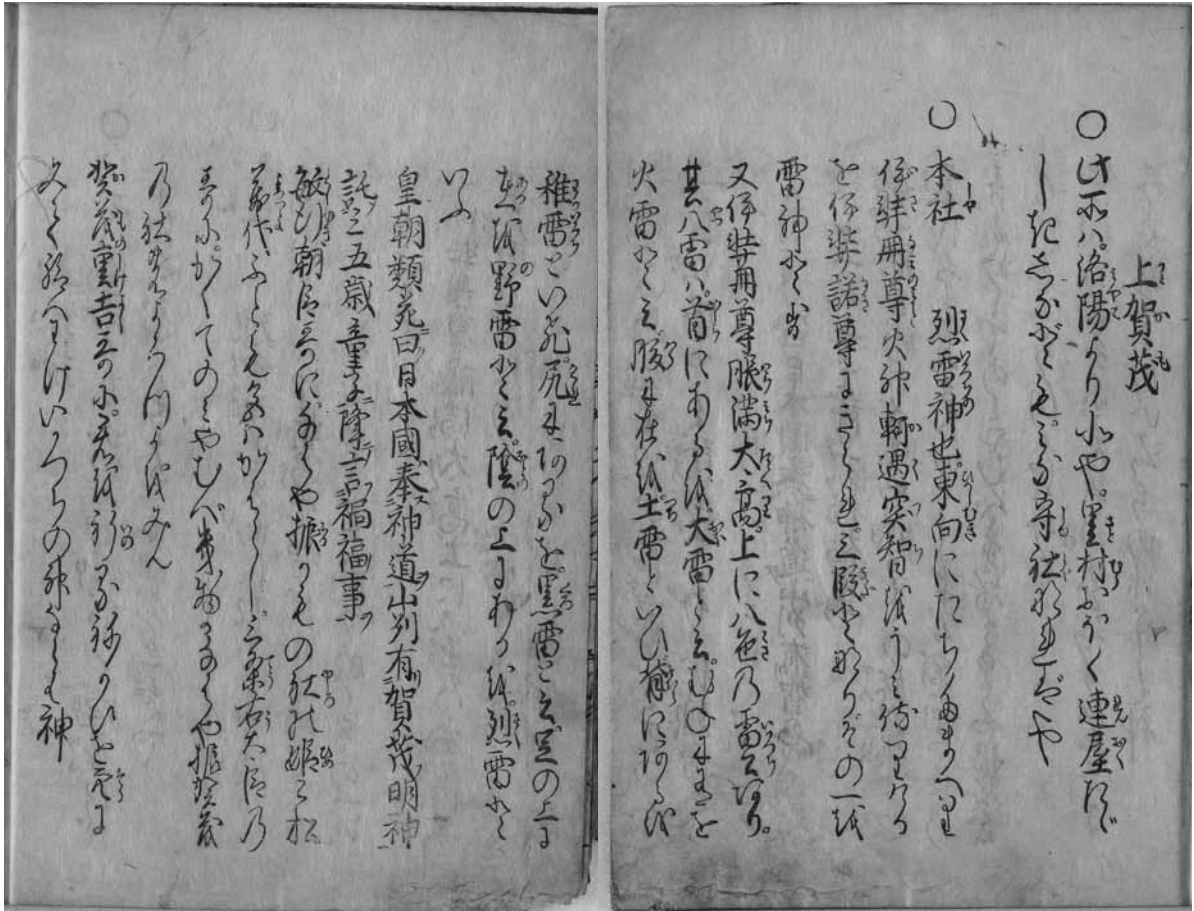
卷七 上賀茂



京都府立総合資料館蔵



京都府立総合資料館蔵



京都府立総合資料館蔵

上贺茂

这个地方比皇都偏北。村落众多，鳞次栉比家家户户都甚是优雅。这是因为这些人都是守护上贺茂神社的家族的缘故。

安置神体的正殿 面东而建，供奉的是烈雷神。

伊弉冉尊生下了火神轲遇突智，并因此身亡。轲遇突智被愤怒的伊弉诺尊劈斩，成为三部分，其中的一部分被称为雷神。

伊弉冉尊死去之后，她的尸体的腹部高高隆起，在其尸体上有八种雷神。这八种雷神分别是在头部的被称为大雷，在胸部的被称为火雷，在腹部的被称为土雷，在背部的被称为稚雷，在臀部的被称为黑雷，在腿部的被称为野雷，在女性生殖器上的被称为烈雷。

《皇朝类苑》中有如下记述。“日本国奉神道。山州有贺茂明神。托三五岁童子降言祸福事。”

藤原敏行的和歌中，有这样一首：“即使天皇的统治持续一万年，贺茂神殿的漂亮的小松树那葱郁的绿色也一定不会改变。”三条右大臣的和歌中，有一首如下：“绝不能让这次的敕使派遣成为最后一次，敕使的派遣今后也要一直持续下去，以见证贺茂神社是永远的。”

贺茂重吉有这样一首和歌：“啊神灵啊，如果您是从空中降临的别雷之神，那么请您在天空实现祝吾皇永远繁荣的心愿吧。”

(李 婷 訳)

【現代語訳】

上賀茂

○この場所は、都より北です。村落が多く、連なって並んでいる家々が上品なもの、それらが上賀茂神社をお守りしている家だからなのです。

○ご神体を安置する社殿 烈雷神が祭神です。東を向いて建てられていらっしゃいます。

伊弉冉尊が、火の神である軻遇突智をお産みになったのだったが、そのために伊弉冉尊は亡くなった。軻遇突智は、怒った伊弉諾尊に斬られて、三つになった。そのうちの一つを雷神と言います。

また、伊弉冉尊が亡くなって、彼女の死体の腹は高くふくれあがっていて、死体の上には八種類の雷神がいました。その八つの雷神とは、首にいるのは大雷（おおいかずち）と言ひ、胸にいるのは火雷と言ひ、腹にいるのは土雷と言ひ、背にいるのは稚雷と言ひ、尻にいるのは黒雷と言ひ、足の上にいるのは野雷と言ひ、女性器の上にいるのは烈雷と言ひます。

『皇朝類苑』には次のように述べられています。日本の国は神道を信じて、うやまい従っています。山城の国に、賀茂の明神がいます。空の上から三歳もしくは五歳くらいの児童におりて、不幸なことや幸福なことのお告げをします。

敏行朝臣の和歌に、次のようなものがあります。賀茂の社殿にある美しく小さい松は、万年も続く天皇の治世を経過しても、その常緑の色はきつと変わることがないでしょう。また三条右大臣の和歌に、次のようなものがあります。今回の勅使の派遣だけで終わりにしてよいものではありません、今からは勅使の派遣をいつまでも続けて、賀茂神社の永遠であることを見届けたいものです。

賀茂重吉の和歌に、次のようなものがあります。わが天皇の永遠の栄えを祈る願いを、天空で満ちかなえて下さい、天空から下られた別雷の神でいらっしゃるならば、ああ神よ（御願い申し上げます）。

（赤瀬信吾）